

ごみゼロネット準備会（第2回）議事録

開催日： 2008年（H20年）9月1日（月）10:00～12:00

場所： ウエスト（新小金井駅前）

出席者： 平林（司会）、加藤、市原、原、大橋、加賀谷、伊藤、桐生（作成）

議題：

1. ごみゼロのポータルサイトの立ち上げ

8/12、ジョナサンにて行われた第1回準備会の要請を受け、大橋氏が作成し2008/9/1付け「ごみゼロのポータルサイト」を配布、趣旨／基本方針／タイトル／項目／ドメイン名／サイトを置く場所、について逐次説明あり、各委員より関連事項の発言・討議を行い、以下の決定をした。

- (1) ポータル(サイトの最初の頁)に掲載する数行の「趣旨」は、平林氏が作成する。平林氏は「出席者の皆さんからの智慧もいただきたい」との要請をされた。
- (2) 「基本方針」は原案の「親しみやすく、わかりやすいページ。最新情報を盛り込む。実活動との連携をとる。市民の活動を伝える」に異論はなかった。
- (3) 「タイトル」は「ごみゼロネット」と決定。
- (4) 1～12までの項目の内、1～11は既に多数の資料を集めておられる加藤氏より提供してもらうことになった。数百頁に及ぶその資料は、そのまま掲載すると浩瀚過ぎて返って読まれない危険性もあり、「加藤のページ」として載せるか、会で揉んで簡略化するか、現物が出てからの検討事項としたい。
- (5) 「ドメイン名」は大橋氏提案の「gomizero.net」で決まり。ドメイン維持費用は 790円/年。
- (6) 「サイトを置く場所」も大橋氏提案の維持費用 2,400円/年の「Value Domain」に決定。

2. その他の決定事項

- (1) 準備会メンバーのメーリングリストを作成し、今後の連絡・情報交換の場とする。（大橋氏担当）
- (2) 「ごみゼロネットのサイト」と、この種の活動を行う団体との協力関係を作るため、それら団体のサイトと相互リンクを張る。（例：「ごみ環境ビジョン21」等、各位の提案を待つ）
- (3) イビデン(株)の「亜臨界水処理設備」の見学会は10月4日(土)に設定予定。メーリングリストで皆さんに連絡し、参加者を募集する。（平林氏担当）

3. 討議の過程で見えてきた生ごみ処理の課題



これまでの経験で、「減量化」を目的にするのか、「資源化」を目的にするのかでアプローチが全く変わってくる。「目的」が明確になって始めて「処理方式」が決まる。（平林、加藤）

- 「生ごみの資源化」は分別回収の趣旨が徹底できる千所帯から最大でも三千所帯の規模の自治体では可能だが、年間に1万所帯が入替わる小金井市では、別の地域の分別方式に慣れた移動する住民に趣旨が徹底することはあり得ない。小金井市では、今回の課題に対しては「減量化」で行くべきである。「資源化」は「都市ごみ」と切り離して、その趣旨に賛同する団結力あるグループで行ってほしい。（平林、加藤）
- 東京農工大学と府中のNECが「社員食堂生ごみの資源化」に取り組んだが、発生する悪臭で付近の住民から抗議され、中止してしまった。今、関係者は新しい取り組みはコリゴリだという。狭山市では「生ごみの乾燥化」で資源化しているが、対象は100戸程度である。（加藤）
- 「減量化」にも「亜臨界水」の他にも「炭素化」「減圧高速発酵」など複数の方式が存在する。
- 「プラウドタワー」は「専用水処理施設」を有する「各戸ディスポーザ方式」で生ごみ処理から解放されている。発生する固形物は乾燥させて廃棄する。（加藤）
- その他、加藤氏作成の「小金井市ごみ・資源物処理量実績比較」、2007/3付け「小金井市消費者団体連絡協議会」発行「スクラム」（8頁）等の参考資料が配布された。

次回打合せ 日時：10月6日（月） 10:00～12:00 / 場所：ウエスト

1 / 1